



旧東海道・御陵進藤町付近 画 蓮佛 亨

編集後記

『燎原』総目次（八）

燎原文芸

短歌

黒住嘉輝

「日の丸・君が代」の京都市内
小・中学校への押しつけの実態

本田久美子

真理と自由を教えて
虐殺された倉岡愛穂先生

湯浅貞夫

真理と自由を教えて 虐殺された倉岡愛穂先生

湯浅 貞夫

一、葬式を出すな

日本海の荒波が打ちよせる丹後半島の北端、京都府竹野郡丹後町上宇川鞍内の部落は、春とはいえ吹く風は冷たい。

丘の上に建てられた高さ六五cm、幅二四cmの御影石の墓石には、次のような墓碑が刻まれている。

表 倉岡愛穂大人の碑
裏 京都師範学校卒業、郷里ノ
小学校教員、校長。

神戸の小学校教員。

平和を愛し戦争に反対して未決一五七日。神戸市御影

警察に於いて取調べ中に絞められる。

東京青山斎場解放戦士の墓、並びに京都東山京都解放戦士の碑中に合祀される。

一九三七年(昭一二)四月九日、日支事変の勃発直前である。兵庫県御影警察の一室で一人のガツチ

リした体格の教師が拷問のため絞

殺された。警察はこれを「自殺」と称して、家族に「倉岡が変死したから死体を受け取れ」と連絡してきた。

かけつけた家族が、そこに見たのは無残な倉岡愛穂の死骸であった。警察が言うには「倉岡は、ワイヤツのカフスボタンの所を結び合わせて首つり自殺を図った」という。家族がしらべると「首は絞められたあとが残っていた」しかしおかしいことには死後一〇時間も立つてのことであつた。そしてさらに、警察が家族に厳重に申し渡したのは、次の三点であつた。

一、医者に診せるな。

二、葬式を出すな。

三、死亡通知をするな。

という冷酷なものである。これは明らかに警察による拷問死の隠蔽ではないか。倉岡先生の兄弟たちは悲憤慷慨、血涙を流した。

倉岡先生とともに捕えられた同僚の窪田弘道先生は後年憤然とし

て語った。「倉岡先生は治安維持法でやられたけれども、二年や三年くらいのことで自殺するような人ではない」と。

二、真理と自由と平和求めて

戦前の日本の義務教育は「朕惟フニ我力皇祖皇宗、國ヲ肇ムルコト宏遠ニ、徳ヲ立ツルコト深厚ナリ……云々」から始まる教育勅語が基調となっていた。

この教育こそ歴史の真実をゆがめ国民の自由を圧迫する超国家主義的教育であり、国民を一路戦争にかりたてる天皇制軍国主義教育であった。

このような反動的教育に対しても立つてゐることであつた。そしてさらに、警察が家族に厳重に申し渡したのは、次の三点であつた。

最初の教育運動は「新教育」や「啓明会」の活動である。それらは自由主義の範囲を出なかつたが、順次前進して「教員会」そして「教員消費組合」へと発展した。

昭和期に入ると、あの激烈な世界恐慌の波をうけ日本の階級闘争は激化した。それにともない教育運動も前進し、一つは労働組合としての「全日本教育者労働組合」

(教労)と、他方、教育研究活動としての「新興教育研究所」(新教)の設立というかたちで発展したのである。

一九三〇年(昭五)に創立された新興教育研究所創立宣言を見る

と、

「教育労働者組合はわれわれの城塞であり、新興教育研究所運動はわれわれの武器である」

「当面の任務は、反動ブルジョア教育の批判と、その排撃であり、新興教育の科学的建設と宣伝にある」

と書いている。今日では、ブルジョア教育に対するプロレタリア教育運動の対置は若干のセクト主義的側面のあつたことを認めていながら、当時の天皇制軍国主義教育に对抗した点はきわめて重要な歴史的意義を持つ教育運動であつた。

まず、この新興教育研究所は東京で設立されたが、機関誌「新興教育」は創刊号四千部が売り切れた。昭和七年の資料では、全国三百府県に支局が設立され、読者の府県も二〇府県を数えた。またこれと平行して組織された教労は全国二〇府県に及んだのである。

京都においては一九三一年(昭六)室町校にいた丹後出身の安達

征一と待鳳校の亀岡出身の人見亨や川西勇等が中心に市内二二校三局が結成されたのである。この人々は結成後一斉に弾圧をうけ前記三人は不當にも教職を追放された。

一九三三年（昭八）、神奈川県平塚第三小学校の脇田英彦が国定教科書批判、ピオニール（少年団）などを組織したが、治安維持法に問われて検挙された。治安維持法とは「國体変革や私有財産否認の目的をもつものは死刑、または無期懲役」というもので、また「情を知つて目的を助けるものも処刑」という戦前における最悪の弾圧法であった。この年、長野県下で二三〇名の大量教員が弾圧を受けた「長野教員赤化事件」も有名である。

兵庫県では一九三二年（昭七）太田耕司が東播地方で新教に参加したが、同じ年、神戸市二葉小学校で「チヨンガーハ」という学習研究サークルを作っていた倉田愛穂と同僚の窪田弘道や下村鋼三が新興教育兵庫支局を結成した。この組織は教師や生徒の中で厚い信頼のもと活動を開拓していたが、一九三四年（昭九）東六セツルで開かれた全国講習会に兵庫代表として窪田先生を送った。倉岡

も講習会成功のため一〇円のカンパをした。が、この時の「雪合戦」というビラがバレて一〇名の強制配転、分散させられた人々は月に一回集つてプリント交換をおこなつた。

「ソクラテスはなぜ毒をあおつたか」「國法は万能にあらず」「貧乏はなぜ起きるか」などのテーマで教材研究をやつては次のように語った。

「倉岡先生は常にわれわれのリーダーであった。謹厳誠実。大声はりあげず生徒を叱責せず。それでもクラスの平均点はいつもトップ。先生の八畳と六畳の部屋には一杯の蔵書。個人であんなに多くの本を持つ人は知らない。

先生は常に私たちにしやべらせた。チューター方法はソクラテスの三段論法。文集作りや授業の実践は子どもの家庭・親・友人の具体的なことを出させ、自分の頭で考えさせる。クラスはいつもシンとしていた。どんな暑い日でも先生は校庭に出て生徒をジイッと観察している。生徒は細かいことでも倉岡先生に相談していた。

本人は妻帯せず、常にのどが悪かったとみえて、しょっちゅうウ

ガイをしておられた」ということである。

軍国主義の強化しつつあった昭和初期の教育法にしてはやはり自己主張を重んじた民主的学級づくりに心がけていたことがわかる。

当時はまだ、今日で言う集団主義教育が確立されてはいなかつたとしても私たちはその芽をうかがうことができる。新教の京都の組織者であつた人見亨のノートを見ると当時既に、ソビエット教育学の研究がとり入れられていた。

創立から二年たつた新興教育研究所はプロレタリア文化連盟の一翼として、その名を「新興教育同盟」と改め、当時の日本における教育研究運動の中心的役割をはたしていた。その運動方針を二三あげてみると、

1 ブルジョアジー、ファシスト、社会ファシストの初等教育理論との闘争
2 無産児童の完全なる教育的欲求の充足のための一切の物質的条件の獲得
3 植民地における帝国主義的教育との闘争……云々

地理は現実社会に接近した教え方などとなつてゐる。一項の「社会ファシスト」という言葉のところは当時の社民主要打撃論で今日では総括しているところだが、當時の倉岡先生らはこのような線で実践活動をおこなつていたのだろう。

三、人民戦線事件に

一九三六年（昭一一）一二月五日倉岡先生が突如、兵庫県御影芦屋署へ、下村鋼三が御影署へそれぞれ検挙された。つづいて一二月二八日、同僚の窪田先生夫婦が

「警察はデミトロフの統一戦線のビルをみせて、私を追及した。私は「知らぬ」と突っぱねたが、『横着者奴』となぐられた」といつている。

これは一九三六年（昭一一）から三七年（昭一二）にかけて起こされた「人民戦線事件」というものである。コミニテルン第七回大会で出された「反ファシズム人民戦線」の方針を支持したとして、全国的に千人以上の活動家や学者が、一九三四年（昭九）東六セツルで開かれた全国講習会に兵庫代表として窪田先生を送った。倉岡

文化人が検挙された事件でマルクス主義者だけでなく自由主義者までもが弾圧されたのであった。

2 1 国定教科書の批判的検討
児童生徒の年齢に応じ国史

一九三七年（昭一二）三月、例の窪田先生は「手記」を終えて四月一六日に釈放された帰途、倉岡宅を訪ね、そこで始めて倉岡先生の死を知らされたのである。

倉岡愛穂は、昭和一二年四月九日、若冠四二歳、未決のまま獄死した。倉岡先生を絞め殺した日本の国家権力は、一九三七年（昭一二）まで残っていた新興教育の最後の砦兵庫支局を絞め殺してしまった。しかし、その流れをくむ人々は、あの戦争中にも「綴方運動」や「教育科学研究会」へと形を変えて地下水のように運動を続けていたのである。しかしこの運動も、最終的には分散し、日本の自由と進歩の伝統を引き継ぐ革命家たちも、残酷なテロのために殺されると、または、ほとんど獄中に閉じこめられてしまったのである。

その結果は明らかである。日本帝国主義者は一九三七年（昭一

二）七月七日、盧溝橋事件を起こし中国侵略にのりだし、やがて世界各国を相手に無謀な太平洋戦争を起こした。そして多くの国民を死の灰の中にたき込んだのである。

四、義憤の涙

倉岡先生には三人の仲のよい兄

弟があつた。長兄を瑞穂、次男が愛穂本人、三男が護穂、この兄弟たちは次男の獄死を知らされ、怒り心頭に発した。警察に禁止された「死亡通知」のかわりに次のようないい「経歴書」なるものを関係者に配つた。

倉岡愛穂ノ略歴

明治二八年二月九日、京都府竹野郡上宇川村字鞍内、農、戸主九左衛門ノ二男ニ生レ（一八九五）

一、京都師範一部卒業、大正五年（一九一六年）二二歳

一、竹野郡中浜小学校訓導、自大正五年至大正一年（一九一

六一二二）

一、間人小学校訓導、大正一一年（一九二二）二七歳

一、虎杖小学校校長、大正一二年二八歳

一、神戸市御藏小学校訓導、自大正一三年至昭和九年（二九一

三九歳）

一、神戸市二葉小学校訓導、自昭和九年至昭和一二年（三九一

四二歳）

昭和一一年一二月二三日、思想嫌疑犯トシテ兵庫県御影署ニ留置セ

ラレ御影警察署長御前一男ガ自力ラ調べテイタ。御影警察署ニ留置セラレテカラ百六日目、即チ昭和一二年四月九日（一九三七）

変死シタカラ死体ヲ受ケトレト、生島検事が申シタノハ凶変後一〇時間位モタツテカラノコトデアッタ。

姫路市北条口一〇二
兄 倉岡 瑞穂
弟 倉岡 護穂

少時カラ性温厚、学ヲ好ミ、父ニ事ヘテ孝養克クカメ、兄弟友人ト交リテハ親和ノ誠ヲ尽シ、徳行範ヲ自ラ垂レ、時二人愛慕スルトコロデアツタ。

漸ク熟シテ未タ思想蘊蓄ヲ發表スル機会ナク切歎憤激シツツ御影警察署内ニ憤死シタデアロウ……

肉親等、驚愕悲愴、憤懣ニ耐ヘズ。

愛穂ノ思想内容ハ穩健中正、常に國家大衆ノ味方デアツタコトハ其ノ生前、足跡ニ歴然トシテキル。

思想矯激ト考ヘタルハ余リニモ其ノ無学低級、頑冥ナノヲ痛恨スルトコロ、事後ノ処置ニ対シテモ、余リニモ其ノ冷酷……近親等、義憤燃々万尋ノ怨ヲ有スルノデアリマス。

茲ニ懇意流涕シツツ死亡ノ御報ヲ致シマスニアタリ各位ノ永年故人ニ賜リマシタル深淵ナ御厚情ヲ衷心感謝致シ上げマス。

尚、故人最終ノ儀ヲ揚ゲマヌ冥福ヲ祈リ下サルコトヲ得マスレバ

随喜スルトコロデアリマス

昭和一二年四月九日（一九三七）

この死亡通知ならぬ経歴書は憤懣やるかたない兄弟たちの怒りに満ちた抗議文となつてゐる。しかも兄弟への深い愛慕と尊敬の念、しめ殺したものへのかぎりない怨念と糾弾の情、烈々たる気迫が私たちの胸につたわつてくる。

また、「愛穂、思想内容、穩健中正、常ニ國家大衆ノ味方」、謹厳誠実の兄の性格を知る兄弟にしてみれば誠に穩健中正であつたろう。「常ニ國家大衆ノ味方」と言う國家と大衆の対立物を並列にした表現のあるところの国家大衆は大衆にポイントを置くものであろう。

あるいは、再び「國家」の彈圧を回避するための「奴隸の表現」なのかもしれない。が……統いて「思想矯激ト考ヘタルハ余リニモ其ノ無学低級」と痛罵するあたりは、兄弟たちの国家権力に対する無限の抵抗精神を感じ得することができる。

五、丹後の空は……

四月九日は倉岡先生の命日である。私が先生の墓参りに宇川の村を訪れたときは、丹後の空は暗

く、山野は春の雨に煙つていた。
鞍内地区の中程にある先生の生
家は昔のままのたたずまいであつ
た。甥にあたる倉岡正二さん近
親者に管理され、生前、先生が心
血をそそいだ教育研究の貴重な資
料や、うづたかく積まれた蔵書の
山は、今も大切に保存されていた
のである。

戦前における私どもの偉大な先
輩たちが、生命をかけて求め続け
た真理と自由と平和の教育は、戦
後の日本国憲法と教育基本法の中
に立派に生かされた。そして戦後
四〇年、平和と民主主義教育は多
くの人々によって守り発展させら
れてきた。だからこそ、倉岡先生
の墓碑には「倉岡愛穂大人の碑」
と後世の建立者の手で銘記された
のである。

ところが、今日、日本を支配す
る米日独占資本の支配者たちは、
再び日本の教育を暗黒の淵に突き
落とそうとしている。それは臨教
審路線の道であり、今日の教育六
法の改悪の問題である。それは、
大型間接税を強行して軍備の「金
づくり」とともに、権力と大資本
に奉仕する教師と生徒の「人づくり」
政策なのである。

私たちには、いかなる権力の不当
な教育への干渉も許してはならない。
自由と平和を日本と世界の子

どもたちの上に築き上げなければ
ならないのである。

(ゆあさ さだお・故人)

付記

故湯浅貞夫氏のこの文章は『郷
土と美術』(九二号・一九八八)に
発表されました。もとは『京都民
報』六九五号に掲載した原稿に加
筆されたものです。あまり広く知
られていない史実なので、関係者
の許しを得てこの号に掲載させて
いただきました。

丹後出身、京都師範卒業の倉岡
氏は、兵庫県に転出後の教育運動
を理由として弾圧されたため、そ
の活動の詳細は兵庫県で記憶さ
れ、「兵庫民報」(一九七六年二
四月)に紹介されています。湯浅
氏の原稿の再録については堀江保
次氏のお世話をになりました。特記
して御礼申し上げます。

一九八五年文部省の「日の丸・
君が代」実施率調査の結果、京都
と沖縄が大変低い定着率とわかつ
て以後、急速に学校に押しつけら
れてきました。それは、京都市教
育委員会による校長を中心とした

学校運営体制の一層の管理強化と
ともに進められてきました。

本来卒業式は、子どもたちの最
後の授業としてみんなで祝福し、
希望に胸ふくらまして、巣立つ場
でもあります。私たちはこのよう
な攻撃の中でも、みんなで祝福で
きる卒業式にしようと、式を混乱
させず、子どもが主人公である卒
業式をつくりあげてきました。そ
れが、離壇だつたり、花道だつた
り、在校生の作品だつたりさまざま
な精一杯の工夫をしてきました。

「君が代」は、「テープ演奏」か
ら「齊唱入りテープ」へ、そして
「ピアノ伴奏」の強制へとエスカ
レートしてきました。

こうした押しつけは、「職務命
令」や「人事異動」に絡めた脅し
などとともに、極めて強権的・卑
劣な形で行われてきたのです。そ
して式当日は、教育委員会の指導
主事が学校に配置され、式の様子

「日の丸・君が代」の京都市内 小・中学校への押しつけの実態

本田 久美子

三脚から壇上中央張り付けに強行
されました。それと同時に卒業生
が在校生や父母と向き合う「フロ
ア形式」の禁止、在校生や卒業
生の似顔絵などの製作物の式場か
らの撤去など、「卒業式・入学式」
のかたちや内容にまで介入が行わ
れています。

「君が代」は、「テープ演奏」か
ら「齊唱入りテープ」へ、そして
「ピアノ伴奏」の強制へとエスカ
レートしてきました。

こうした押しつけは、「職務命
令」や「人事異動」に絡めた脅し
などとともに、極めて強権的・卑
劣な形で行われてきたのです。そ
して式当日は、教育委員会の指導
主事が学校に配置され、式の様子

がすべてチェックされ、教育委員会の意にそわないときは学校長に厳しく「指導」が行われます。五年以降の押しつけの中心的役割を担ってきたのが、現京都市長の桝本さんであることを付け加えておきます。

今年の三月の卒業式では、多くの学校（とくに小学校）で「大きな声で君が代を歌うよう指導すること」との指導が入りました。私のいた職場では、長い論議の末、「歌いたくない人に強制はできない」というところまでやつといたりました。

卒業生は社会科の歴史の学習で、日本が行つた侵略戦争の中で「日の丸」がどういう意味を持つていたのか、「君が代」の君は天皇のことを指し、天皇がその戦争のなかで果たした役割はなんだつたのか、ちゃんと学習しているわけです。そんな子どもたちが、自分たちの最後の授業となる卒業式に、「君が代」を歌わなければなりません。それがたとえ小さい声でも、担任している教師としては本当につらいことです。

また私の友人の教師は、卒業式の日、家庭の考へで「君が代」がなると体育館から出て行つた子どもがいて、ほんとうに子どもたちにそんな選択をさせなければいけ

ない状況をつくつてしまつていて自分が情けないと嘆いていました。

「日の丸・君が代」が国旗・国歌として法制化されると、ますます学校への押しつけは強まると考えざるをえません。

私たち京都市教職員組合は、戦後初めてともいうべき「日の丸・君が代」にかかる国民的な論議をさらに前進させると同時に、内心の自由にかかわる民主主義の基本的な問題として、学校と教育をはじめいかなる押しつけも許さないたたかいを前進させる必要があると考えています。教育懇談会も多いに呼びかけながら、地域父母市民のみなさんとともに奮闘していきたいと思っています。（ほんだくみこ・京都市教組委員長）

燎原文芸

短歌

黒住 嘉輝

大台ヶ原

樹皮剥がれ磨き丸太のごとき幹
枯れ立つは冬場鹿の食みしあと
木々枯れて明るくなりし森のなか
苦消えて笹の茂りゆくなり

残置諜者

前半生縁のなかりし眼鏡という厄
焼肉と一緒に腹中に收まりし折れ
し歯とその虚うろと共にいまいまし
介なもの湯槽に洗う

樹皮まるく剥がれ枯れし木々は
立ち鹿の好物の笹育ちゆく

「退却」を「転進」と言いし口なれば「盜聴法」「通信傍受法」と言いかえており

大蛇岳へへ向かいて下る尾根道はつ
つじしやくなげ山風のとど

野田寛郎に流れし時間

しゃくなげのトンネルくぐり下る
道 雨止みて薄陽さはじめたり

戦死公報受けし家族と残置諜者小
野田寛郎に流れし時間

ショ店前の朝の行列

『燎原』總目次（八）

第九八号 〔第一一八号

第九八号 (P.10) 九五・二・二〇
ともに歩んで三〇年(二)(橋本雅
弘)、田端忍の永世中立論(天野和

年の日記（古川修）、戦後五〇年の中で思うこと（堀江保次）、泉隆君の思い出を語る座談会（上）

留邦人引上げ輸送の記録（堀江保次）、記録 丹後ちりめん闘争

第一〇二号(P10)九五・一〇・二〇
戦前の京都におけるプロ文化活動
の断面(中村欽吾)、京都第一法律

第九九号 (P10) 九五・四・二〇
記録 丹後ちりめん闘争 (五完)
(川戸利一)、三八年間の学校生活

君の思い出を語る座談会記録
(一)、戦後五〇年にして思う(瀬
野尚憲)・総目次(六)

か大東亜戦没者（高野源治）、近刊『お墓と碑めぐり』（馬原郁）

第一〇三号(P.8)九五・一一・二〇
京都の民主主義文学同盟結成の頃
一三〇年前をふり返つて—(松村)

戦後五〇年に思う（天野和夫・稻田達夫・岩井忠熊・奥村和郎・佐古田好一・佐藤昭夫・品角小文・中

芝 御山とんとん文庫(吉田弘子)、泉隆君の思い出を語る座談会記録(三・完)、「船乗り」(二)(田中豊藏)

野口正一・林中嘉明・皇
田幸男・森本博之・山口正之・湯
浅晃)

第一〇四号(P.8)九六・三・一五

第一〇一號(P8)九五·八·二〇

茂雄)、『船乗り』(一)(田中豊蔵)

第一〇五号（P8）九六・五・一
山宣の柩をかついで（一）（戎谷春松）、戦後京都科学者運動の出発（岩井忠熊）、『船乗り』（三）（田中豊蔵）、湯浅貞夫氏追悼（奥田修三・田中章）

第一〇六号（P8）九六・七・一
山宣の柩をかついで（二）（戎谷春秀夫）、山宣の柩をかついで（三）（戎谷春松）、『船乗り』（四）（谷口茂雄）

第一〇八号（P10）九七・一・一
新しい年の展望（梅田勝）、「京都文化懇談会」の記録（中山研一）、『船乗り』（四・完）（田中豊蔵）

第一〇九号（P8）九七・三・一
綴り方ヒンターランド余話（西村泰一）、幼かりし頃（瀬野尚憲）、市原野清掃工場建設問題の経過と近況（荒川重勝）、『闘争』前篇（一）（田中豊蔵）、老いを美しく（品角小文）

一条山は泣いている（馬原郁）、綴り方バマヒンターランド余話（二）（西村泰一）、「闘争」前篇（二）（田中豊蔵）、総会報告、『燎原』文芸欄の新設

第一一一号（P.8）九七・七・一
総合原爆展の頃（川合葉子）、追想（品角小文）、綴り方 姓・姓・姓（西村泰一）、「闘争」（二）続（田中豊蔵）、奥田修三氏追悼（大谷良一・奥村和郎）、燎原文芸、会員短信

第一一二号（P.8）九七・一・一
詩集「戦後五二年の回想」（佐藤良輔・柴田好人・瀬野尚憲・永原誠、藤原ひろ子・堀江保次）、「闘争」前篇 続（田中豊蔵）、燎原文芸、会員短信

第一一三号（P.8）九七・一・一
京都改憲阻止運動の出発（市木修）、総合資料館の「河上肇文庫」（原田久美子）、会員短信（品角小文）、「うたごえ」よ高らかに（京都市の「うたごえ運動」の歩みから（志摩肇）、「闘争」前篇（四）（田中豊蔵）、燎原文芸

第一一四号（P.8）九八・一・一
学力テスト闘争の回顧（辻能順）、本を読み医療住民運動に参加する

(増田葉子)、伝統と革新 鮎寿司
とポタージュ(岩井忠熊)、会員來
信(源照子)、「闘争」前篇(五)(田
中豊藏)、年頭あいさつ

第一一五号(P8)九八・三・一
「うたごえ」よ高らかに(その二)
(志摩肇)、「闘争」前篇(六)(田
中豊藏)、田中豊藏氏を悼む、「燎
原」総目次(七)、安井眞造氏訃報

第一一六号(P8)九八・五・一
「燎原」と夫(湯浅幸子)、夫と「燎
原」(奥田宣子)、「闘争」前篇(七)
(田中豊藏)、燎原文芸、総会報告
第一一七号(P8)九八・七・一
三・一五と谷口善太郎(梅田勝)、
田中診療所と医学生(佐本昌平)、
「うたごえ」よ高らかに(その三)
(志摩肇)、「闘争」前篇(八)(田
中豊藏)

第一一八号(P8)九八・九・一
北牧孝三と郷里「甘南備」(村島昭
男)、一九四七、四八年の同志社
(湯浅晃)、大道氏追悼弔辞(梅
田勝)、「闘争」前篇(九)(田中豊
藏)

編集後記

本期の国会では「ガイドライン
関連法」「日の丸・君が代法」「盜
聴法」「住民基本台帳法」が一挙に
成立しました。かつて中曾根内閣
は「戦後政治の総決算」を口にし
て「戦後最悪の内閣」といわれま
したが、実際には実行できません
でした。いま小渕内閣の下でそれ
が実行できたのはいうまでもなく
自公連携が成ったせいです。数
の多数の下で公約にも無かった重
要法案がつぎつぎに成立すれば、
国民は議会制民主主義を信用しな
くなるのではないかでしょうか。

第一次対戦後ドイツはワイメー
ル憲法という民主的な体制の下で
国民が議会制民主主義に愛想をつ
かし、ヒットラーの独裁政治を受
け入れました。その結果が第二次
大戦です。日本の政黨が軍部にお
もねつて解散し、翼賛政治に吸收
されていったことは言うまでもあ
りません。

歴史に学ぶべき時がきているよ
うです。「燎原」の存在意義もあら
ためて自覚されるべきでしよう。
暑い夏に考えました。(編集者)。



会および会報については、左
記へご連絡ください。
〔事務局〕

〒六〇五一〇九五三

京都市東山区今熊野

TEL
FAX
南日吉町三九 奥村和郎
〇七五—五六一一七八四五